

七沢希望の丘 初等学校新聞

巻頭言

「輝ける人」

校長 島根照夫

人は豊かさ、豊かになることを望んで働くけど、豊かになって失うものがあります。本当に大切にしたいものとは・・・

子どもにとって本当の幸せとは・・・

大人になればいやでも社会の理不尽という荒波にもまれなければなりません。子ども時代の虹のかかっている美しい時間は短いのです。この虹のかかっている時にこそ子どもたちを幸せに過ごさせたいのです。

かつて貧乏な時代は、荒っぽい教育が当たり前のように行われていました。豊饒な時代にこそ本質は何かと見抜く目を育てたい。夢は育てるもの希望はかなえるもの。現実の夢は目が覚めれば消えてしまいます。現在は平安、過去に感謝、そして未来に向かっては希望なのです。

夢と希望が育てられる学校、それが、七沢希望の丘初等学校です。夢・希望が語れるのは、心の贅沢なのです。

大学は、出たけれどやりたいものが見つからない人が増えていきます。与えられた課題をクリアーすることだけに終始していた人たちなのです。自己評価ができ、自ら取り組む姿勢（学習の基礎・基本）を身に着けた人たちにはそういう類の人はいません。

『子らよ 学びの庭で 友と輝け』これは、学園長内田文江の言葉です。神様に見守られ、この学びの舎で一人ひとりが輝きましょう。七沢希望の丘初等学校から、輝ける子どもたちが巣立っていくことを願っています。



希望の丘に立つ初等学校の学舎

発行者／学校法人内田学園
七沢希望の丘初等学校



島根照夫校長

目次

特集記事

巻頭言／「輝ける人」

- 1 学校説明会
- 2 幼小連携を考える
- 3 キャンプ
- 4 砂運び
- 5 田植え
- 6 耳鼻科検診の日

1 学校説明会

今年度第1回目の学校説明会を実施いたしました。次回は、7月27日（土）です。



2 幼小連携を考える

かつての前任校では幼初の連携を意識しての取り組みが低学年との間で20年以上にわたり実施されてきました。その間に幼稚園の保育者と初等部の教師との間では、次のようなすれ違いがあることが指摘されました。①生活・遊びから立ち上げていく保育と教科教育の違い、②子ども自ら育っていくことへの時間枠の相違、③人事異動と連携への意識の相違などが揚げられました。その後の取り組みの中で低学年と幼稚園の年長組との連携でなく初等部と幼稚園という組織の連携を意識しての研修会へと発展してきました。特に、「いっしょに遊ぼう会」の実施における展開には、保育者と教師間の意識のずれを埋める働きを感じました。連携とは何かを考えたとき、自分が相手の立場に立った考え方、見方ができることが大切ではないのでしょうか。

「いっしょに遊ぼう会」は、異年齢の子どもが関わることで、お互いの学びのチャンスになっています。現代の子どもは、ちょっとした我慢ちょっとしたのがんばりを学ぶ場が少ないように思います。学びとは、新しいことに会うことであり、それを集団の中で学ぶことに意味があります。一人遊びから、群れて遊べるように成長が見られ、群れて遊べるようになると、お互いの距離感がわかり、気づきへと発展していきます。「いっしょに遊ぼう会」を経験することによって、こんな成長が見られる一助になればと願って実施していました。

ここ七沢希望の丘初等学校は、30年以上にわたる内田学園長の保育理論をもとに幼小の連携を大切にしています。併設七沢幼稚園との連携を密に図り、積極的に異学年の子どもとの交流を深めています。1学年時から上級生としての自覚と他者に働きかける態度を養っています。

連携の場面として、「入学式・卒業式」「砂運び」「キャンプ」「田植え」「夏祭り(建学祭)」「プレイデイ(運動会)」「クリスマス会」「収穫祭」「芸術祭」等、多彩です。このような関わりの機会を生かし、お互いの距離感をつかみ、スマートな気づきが身についているようで嬉しいです。

3 キャンプ

飯盒炊飯

8個並べて炊いた。中は、同じ量の米と水。同じように炊けない。火加減もあるのだが数の違いなのか8個は多い。一つか二つが竈に合うのだろう。同じように恵みを与えても子どもは同じように育たない。教育と同じだ。少人数だからできる教育を感じた。飯盒の中の米の様子を棒を使って探っていたR君。その子は静かな小さな音を拾うために、目を瞑っていた。小さな声に耳を傾けると、目を瞑ったほうが、集中できることを教えられないけれど彼は実践していた。



あっ、あの星あんなにきれいに光っている

4 砂運び

すごい、砂だね。

よいしょ、よいしょ。重たいね。



5 田植え

子とともに 泥んこ楽しむ 田植えの日



6 耳鼻科検診



耳鼻科検診の日

なぜか落ち着かない子どもたち。毎日の生活と違うことがあると落ち着かないのか。お医者さんに行くということで、テンションが上がっている。

かつて、交流をしていた止揚学園の福井達雨先生に聞いたことを思い出した。

『止揚学園の子どもたちは、茶碗を割ったということで大騒ぎをしていた。茶碗さんが、イタイタイと泣いているってね。でも、貴校の子どもたちは、ちらっと見るだけで平然としていた』
というのです。コンクリートジャングルで育った子どもたちには、感動や感激という心が薄らいでしまっているのか、そんなことくらいでと格好をつけているのか、いずれにしても感動する気づきを失っている。

ここ、七沢の子どもたちには、素朴に感じる発見する気づき、感動する心が育っているように感じる。なんだそれくらいと思うようなことに、感動や驚きを示す素直さがある。

学校法人内田学園 希望の丘初等学校

□住所／〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 433-1

□電話番号／046-270-6123

□FAX番号／046-270-6122

□ホームページ <http://www.nanasawa-kibou.jp>

□E-Mail nanasawa-kiboul@jupiter.ocn.ne.jp

交通アクセス〈電車・バスを利用の場合〉

□小田急線愛甲石田駅下車。神奈川中央交通バス七沢温泉行き約20分。日向川バス停下車、徒歩10分（小田急線本厚木駅・伊勢原駅からもバスは出ています。

自動車を利用の場合

□国道246号線森の里入り口から七沢方面へ約15分